

認定書

国住指第 219 号
令和 3 年 6 月 7 日

株式会社アイ・テック
代表取締役社長 大畑 大輔 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：各 1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060FL-0211-1
2. 認定をした構造方法等の名称
コンクリート・デッキプレート造床
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

コンクリート・デッキプレート造床

2. 仕様の寸法：

仕様の寸法を表1に示す。

表1 仕様の寸法

項 目	仕 様
床厚さ	155mm以上
支持部材間隔	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2500mm以下(積載荷重9053N/m²以下(自重を含めた全荷重11958N/m²以下)) ・ 2500~3400mm(自重を含めた全荷重×支持部材間隔の2乗=74738N以下) ※支持部材間隔と荷重の関係を別添の表4に示す。
支持方法	単純支持又は連続支持

3. 仕様の主構成材料：

仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 仕様の主構成材料

項 目	仕 様
デッキプレート	材料：デッキプレート(JIS G 3352) 仕様：①又は② ①支持間隔2500mm以下の場合 種類：1)~5)の一 1) SDP1T 2) SDP1TG 3) SDP2 4) SDP2G 5) SDP3 厚さ：1.2(+0.1、-0.06)mm 1.6(+0.1、-0.08)mm ②支持間隔2500mmを超え3400mm以下の場合 種類：1)~5)の一 1) SDP1T 2) SDP1TG 1)、2)の厚さ：1.2(+0.1、-0.06)mm 1.6(+0.1、-0.08)mm 3) SDP2 4) SDP2G 5) SDP3 3)~5)の厚さ：1.0(+0.1、-0.05)mm 1.2(+0.1、-0.06)mm 1.6(+0.1、-0.08)mm 山高さ：75(±1.5)mm 働き幅：600(+8、-2)mm
コンクリート	材料：レディーミクストコンクリート(JIS A 5308) 種類：普通コンクリート 呼び強度：18~36 厚さ：デッキプレート山上から80mm以上

4. 仕様の副構成材料：

仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 仕様の副構成材料

項目	仕様
ひび割れ拡大防止用鉄筋	材料：①又は② ①溶接金網(JIS G 3551) 種類：1)～4)の一 1) WFP 2) WFC 3) WFR 4) WFI 線径：φ6mm以上 かぶり厚さ：床上面から30mm 間隔：150×150mm以下 ②鉄筋(異形棒鋼、JIS G 3112又はJIS G 3117) 寸法：D10以上 間隔：200×200mm以下 かぶり厚さ：床上面から30mm
スペーサー	材料：①又は② ①鉄線 線径：規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上 間隔：1000mm以下 ②セメントブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 間隔：1000mm以下
はりと床版の接合	仕様：①～③の一 ①支持間隔2500mm以下の場合 種類：1)～3)の一 1) 打込み鉋(国土交通大臣認定指定建築材料：MPIN-0003) 寸法：φ4.5mm以上 間隔：300mm以下 2) 頭付きスタッド(JIS B 1198) 寸法：φ13mm以上 間隔：600mm以下 3) 焼抜き栓溶接 寸法：溶接径φ18mm以上 間隔：300mm以下 ②支持間隔2500mmを超え3000mm以下の場合 種類：1)又は2) 1) 頭付きスタッド(JIS B 1198) 寸法：φ13mm以上 間隔：600mm以下 2) 焼抜き栓溶接 寸法：溶接径φ18mm以上 間隔：300mm以下 ③支持間隔3000mmを超え3400mm以下の場合 種類：頭付きスタッド(JIS B 1198) 寸法：φ16mm以上 間隔：300mm以下

つづく

つづき

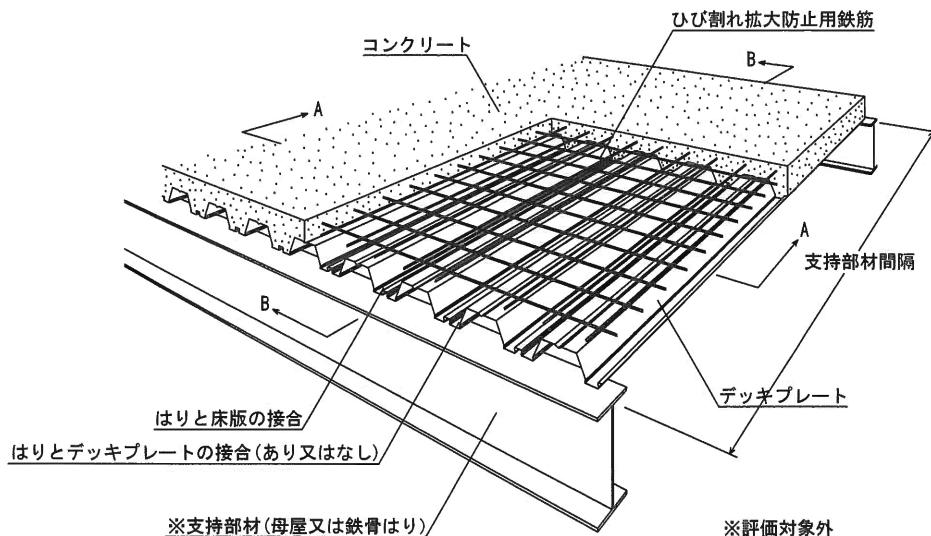
はりとデッキプレート との接合	仕様：①又は② ①支持間隔3000mm以下の場合 材料：1)～3)の一 1)なし 2)アークスポット溶接 3)隅肉溶接 ②支持間隔3000mmを超え3400mm以下の場合 材料：1)又は2) 1)アークスポット溶接 2)隅肉溶接 溶接間隔：300mm以下
--------------------	---

表4 支持部材間隔と荷重の関係

支持部材間隔 (mm)	全荷重 (N/m ²)	自重 (N/m ²)	積載荷重 (N/m ²)
2500以下	11958以下	2905	9053以下
2600	11056		—
2700	10252		—
2800	9533		—
2900	8886		—
3000	8305		5400
3100	7777		—
3200	7299		—
3300	6863		—
3400	6465		3560

※積載荷重＝全荷重－自重

5. 仕様の構造説明図：
仕様の構造説明図を図1～図6に示す。

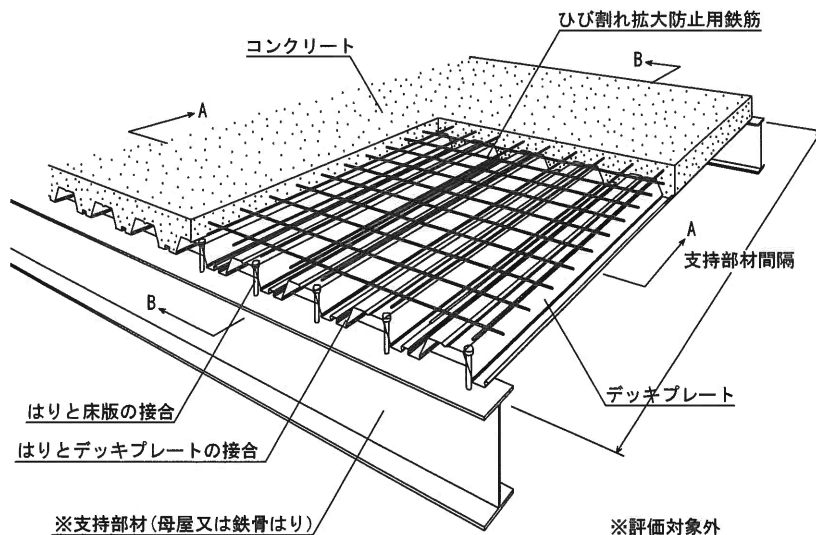


※支持部材(母屋又は鉄骨はり)

※評価対象外

*支持部材(母屋又は鉄骨はり)には、必要に応じて耐火被覆を施す。

支持部材間隔が3000以下の場合



※支持部材(母屋又は鉄骨はり)

※評価対象外

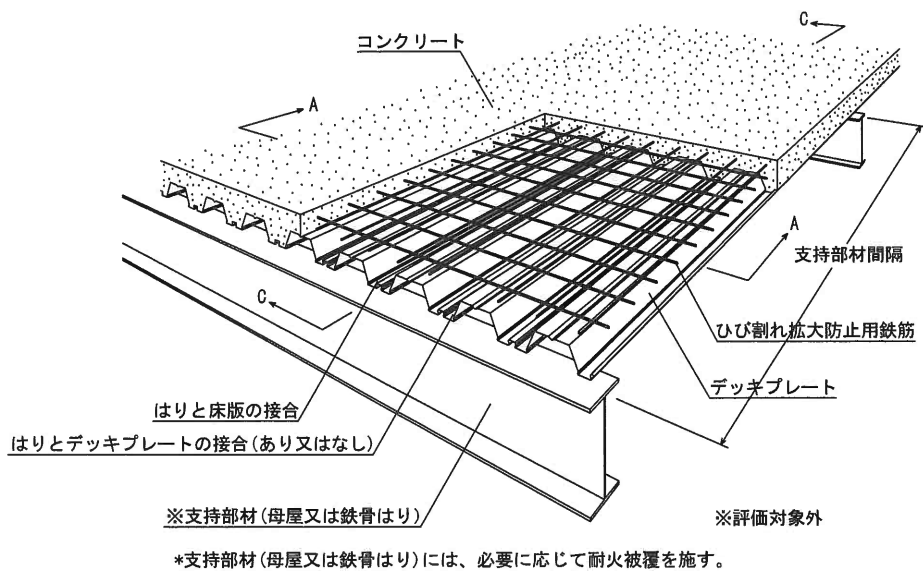
*支持部材(母屋又は鉄骨はり)には、必要に応じて耐火被覆を施す。

支持部材間隔が3000を超え3400以下の場合

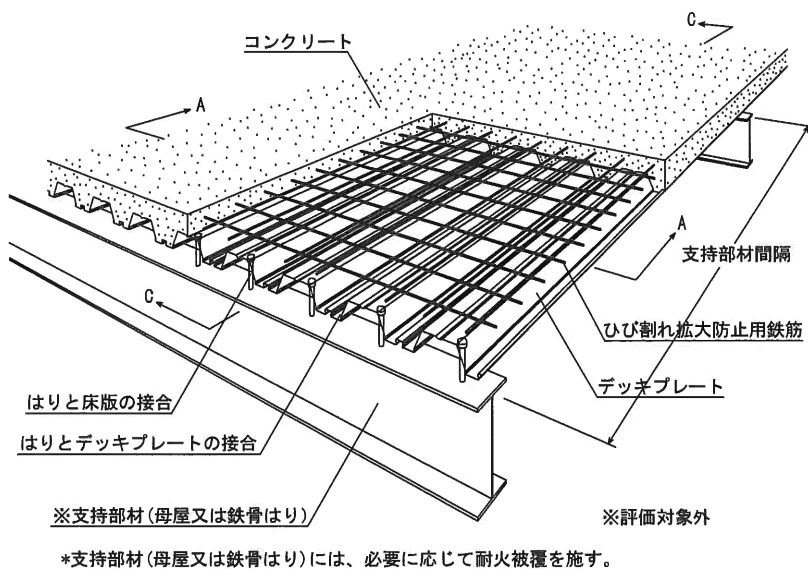
単純支持(デッキプレートが隣接スパンに跨らない場合)

透視図

図1 構造説明図



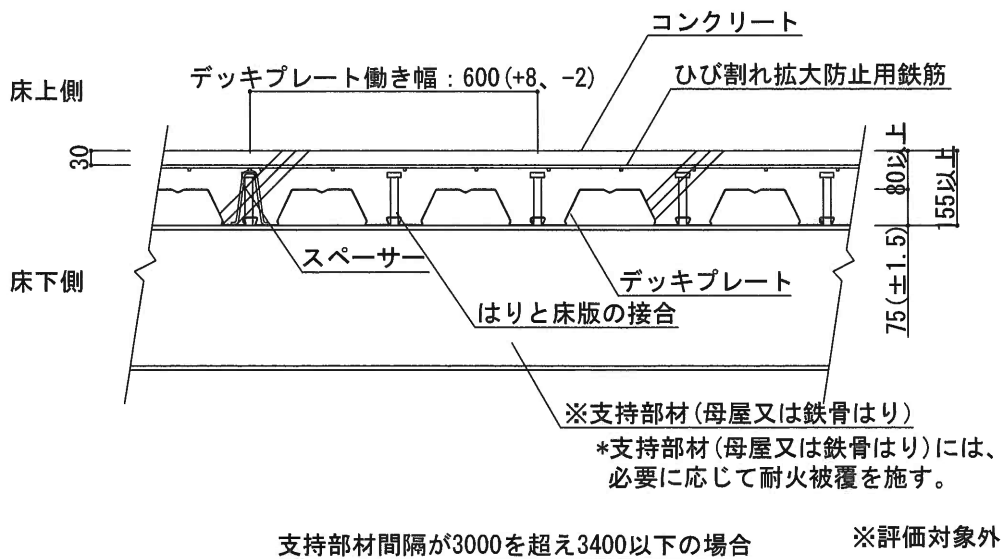
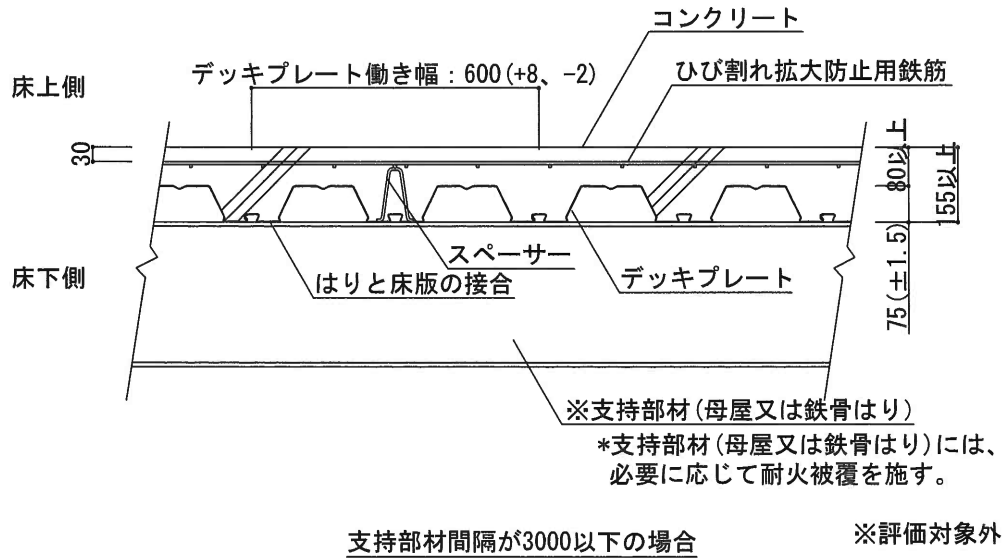
支持部材間隔が3000以下の場合



支持部材間隔が3000を超え3400以下の場合

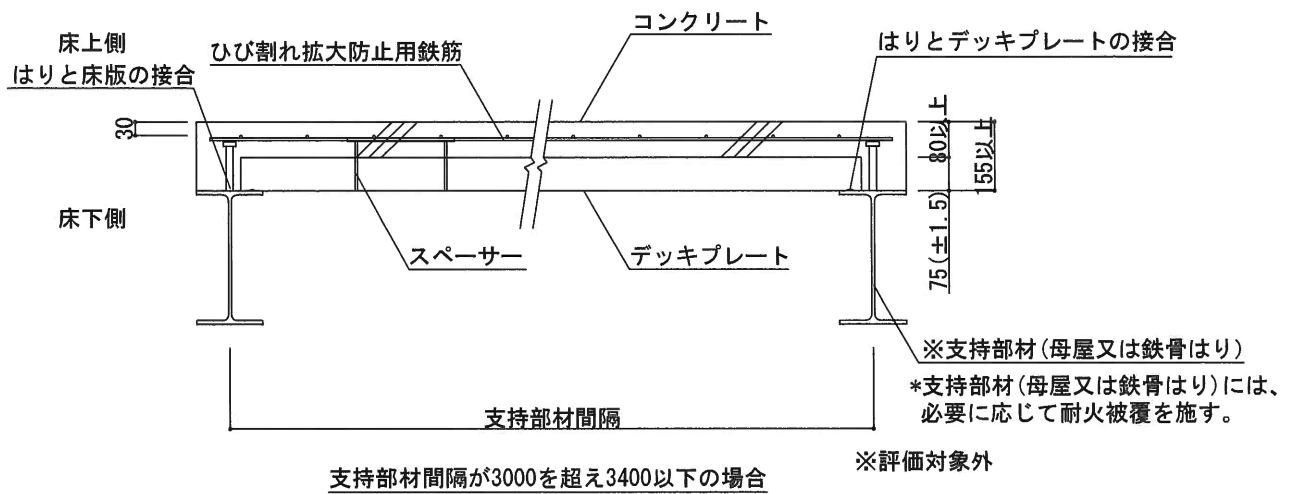
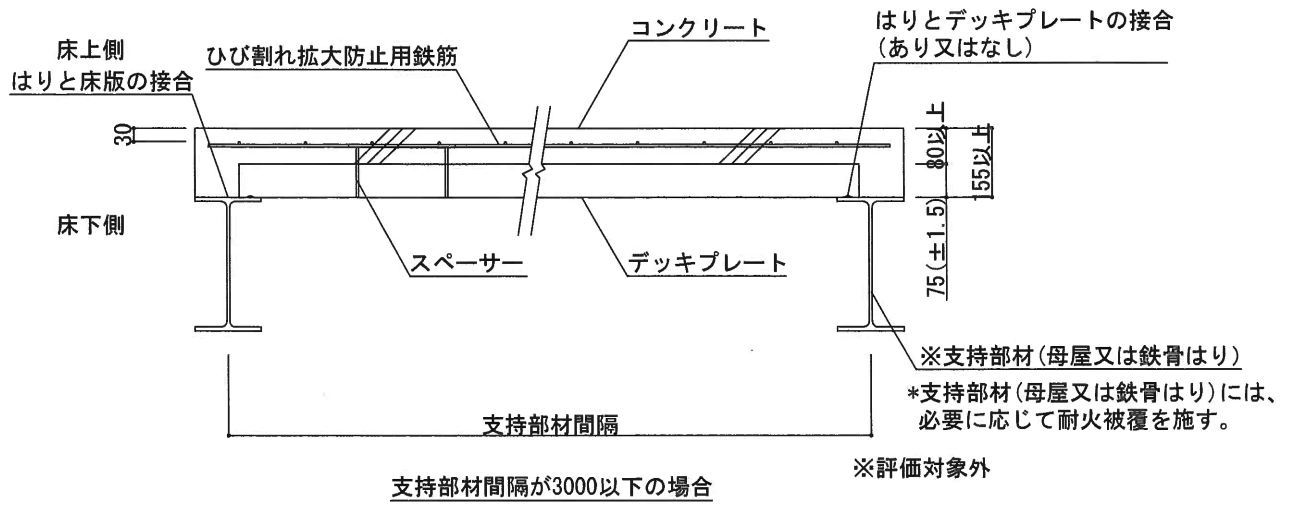
連続支持 (デッキプレートが隣接スパンに跨る場合)
透視図

図2 構造説明図



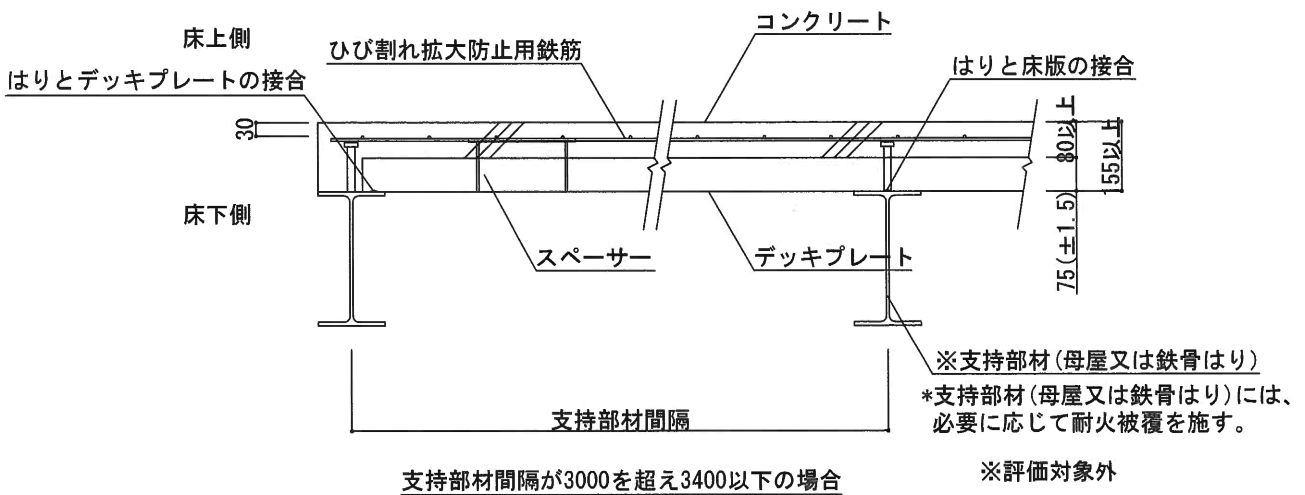
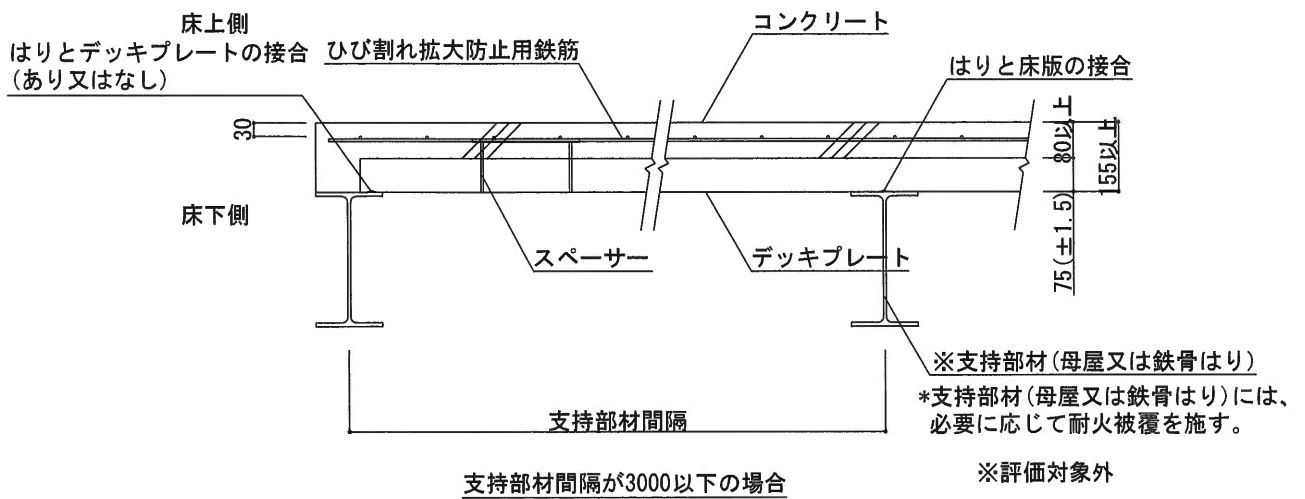
A-A 断面図

図3 構造説明図



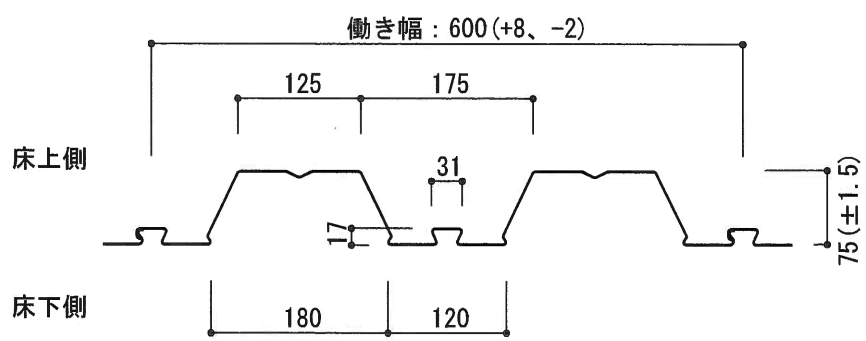
単純支持
B-B 断面図

図4 構造説明図



連続支持
C-C 断面図

図5 構造説明図



デッキプレート形状図

図6 構造説明図

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

<施工手順>

- 1) デッキプレートの敷込み
デッキプレートを墨出し線に合わせてはりに配置し、デッキプレートをはりに溶接等で仮止めする。
- 2) はりと床版との接合
 - ①支持間隔2500mm以下の場合
床版(合成スラブ)と鉄骨はりとは、打込み鉋、焼抜き栓溶接又は頭付スタッドで結合する。
頭付スタッドを用いる場合は、頭付スタッドの施工前に、デッキプレートとはりを隅肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合する。接合方法は、平成14年国土交通省告示第326号の規定及び「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」(日本建築学会)もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」(日本建築学会)によるものとする。
 - ②支持間隔2500mmを超え3000mm以下の場合
床版(合成スラブ)と鉄骨はりとは、焼抜き栓溶接又は頭付スタッドで結合する。
頭付スタッドを用いる場合は、頭付スタッドの施工前に、デッキプレートとはりを隅肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合する。接合方法は、平成14年国土交通省告示第326号の規定及び「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」(日本建築学会)もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」(日本建築学会)によるものとする。
 - ③支持間隔3000mmを超え3400mm以下の場合
床版(合成スラブ)と鉄骨はりとは、頭付スタッドで結合する。
頭付スタッドの施工前に、デッキプレートとはりを隅肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合する。接合方法は、平成14年国土交通省告示第326号の規定及び「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」(日本建築学会)もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」(日本建築学会)によるものとする。
- 3) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置
コンクリートのひび割れ拡大防止のため、溶接金網又は異形鉄筋を設置する。スラブ上面から30mmのかぶり厚さを確保できるように、スペーサー等を使用して設置する。スペーサーの材料は、施工時に変形等しない線径又はセメントブロックを用いる。
配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準じるものとする。
但し、構造評定や性能証明を取得した工法等による場合はそれらの仕様による。
- 4) コンクリート打設
ひび割れ拡大防止用鉄筋が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。
コンクリートの施工については、「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準拠する。
- 5) 仕上げ
コンクリートの表面を金ゴテ等を用いて仕上げを施す。
- 6) 養生
施工後の養生は、「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準拠する。

アイ・テック Sデッキ：1時間耐火仕様 (耐火補強筋不要)

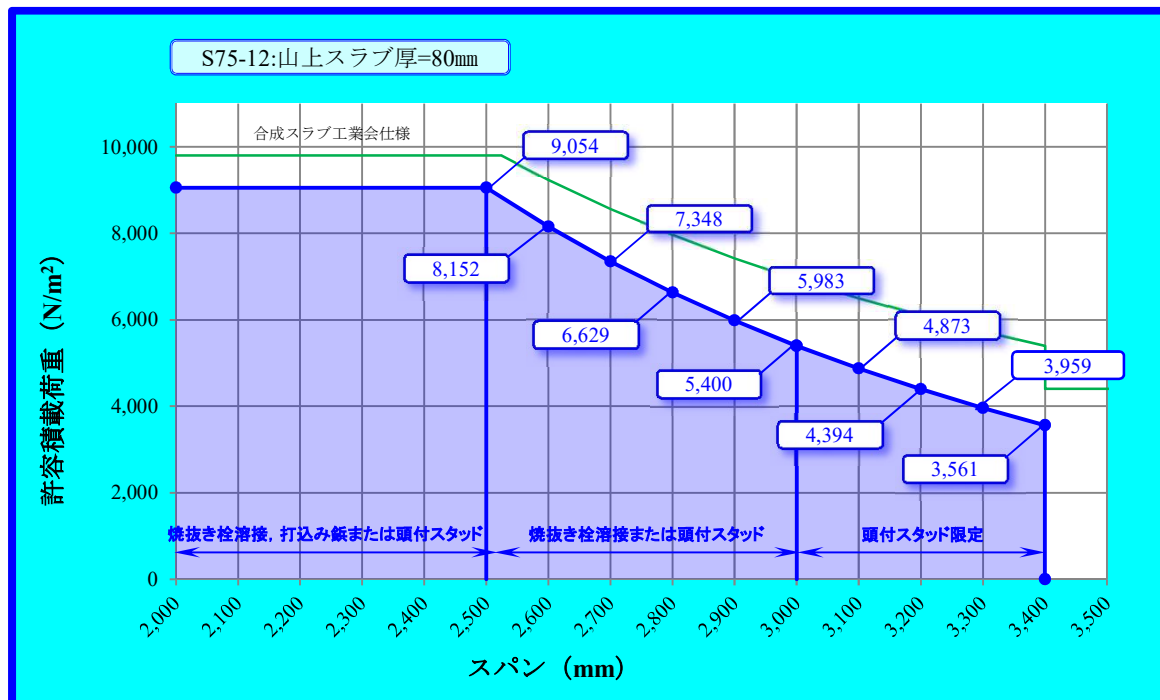
認定番号:FP060FL-0211-1

S75-12,16 SDP1T,SDP1TG,SDP2,SDP2G

普通コンクリート(呼び強度=18~45N/mm²)

溶接金網: φ 6-150*150

固定方法:頭付スタッド, 焼抜き栓溶接, 打込み鉄



デッキ種類		S75-12			S75-16		
山上スラブ厚 (mm)		80	90	100	80	90	100
認定自重 (DL)		2,905	3,145	3,385	2,945	3,185	3,425
スパン L (mm)	2,500	9,054	8,814	8,574	9,014	8,774	8,534
	2,600	8,152	7,912	7,672	8,112	7,872	7,632
	2,700	7,348	7,108	6,868	7,308	7,068	6,828
	2,800	6,629	6,389	6,149	6,589	6,349	6,109
	2,900	5,983	5,743	5,503	5,943	5,703	5,463
	3,000	5,400	5,160	4,920	5,360	5,120	4,880
	3,100	4,873	4,633	4,393	4,833	4,593	4,353
	3,200	4,394	4,154	3,914	4,354	4,114	3,874
	3,300	3,959	3,719	3,479	3,919	3,679	3,439
3,400	3,561	3,321	3,081	3,521	3,281	3,041	

※許容積載荷重 = $8,305 * (3.0/L)^2 - DL$

(単位: N/m²)

※呼び強度=設計基準強度 (Fc) + 構造体強度補正值